

報 告

幼児を育てる母親の養育態度の特徴と
育児感情との関連中川 智子¹⁾, 星野 明子²⁾, 志澤 美保²⁾, 桂 敏樹³⁾

〔論文要旨〕

幼児を育てる母親の養育態度の特徴や育児感情との関連を明らかにすることを目的に、A市の1歳8か月児および3歳児健康診査を受診した子どもの母親を対象に質問紙調査を実施した（有効回答370名，有効回答率53.6%）。その結果，3つの養育態度のうち，許容的態度が172名（46.5%）と最も多く，育児への肯定感は権威的態度の母親よりも有意に低かった。また，権威的態度の母親は，他の2つの養育態度よりも，育児への肯定感が有意に高く，子どもの態度や行為への負担感が有意に低かった。権威主義的態度の母親は，他の2つの養育態度よりも，子どもの態度や行為への負担感が有意に高かった。

Key words：養育態度，育児感情，応答性，統制，幼児を育てる母親

I. はじめに

少子化が進行する中，平成27年の児童虐待相談対応件数は，103,260件と初めて10万件を突破し¹⁾，乳幼児を育児する母親は，虐待しているのではないかといった不安が高まっている²⁾。母親が自分の養育態度に不安を抱くことは，一部の特別な母親だけでなく，どの母親も抱く恐れとなっていると推測される。

幼児期の子どもをもつ母親は，子どもへの干渉や禁止が強いことが指摘されているが³⁾，幼児期は，親が子どもの反抗や自己主張に初めて対応していく時期である。母親は，感情や精神的葛藤をコントロールしながら，子どもとの関係の中で，相互の解決方法を見出していくという適応能力が試されることから，養育態度の基礎を形成していく時期であると思われる。しかし，核家族化により，育児の伝承がなく，親だけで子育てを担わなくてはならない現状や，地域のつなが

りの希薄化により，親子が社会的に孤立し⁴⁾，子育ての技術や育児知識が不十分なまま親にならざるを得ない状況では，母親の自己努力のみで，適切な養育態度を形成することは難しいと考えられる。

養育態度とは，「親が子どもを育てるにあたって，意図的あるいは無意図的にもつ方針」であり⁵⁾，それは，母親の抑うつ感情や⁶⁾，多動や不注意といった子どもの行動特徴によって影響を受ける⁷⁾。また，母親の養育態度は，否定的な育児感情と関連すると指摘されているが⁸⁾，育児感情は，育児不安等の否定的感情をもつと同時に，肯定的感情をもつアンヴィバレントなものである。しかし，養育態度と否定的および肯定的な育児感情との関連を検討した研究は少ない。

本研究は，幼児を育てる母親の養育態度の特徴や育児感情との関連を明らかにすることを目的とした。母親が良好な養育態度を育成するために必要な地域での支援について，示唆を得ることができると考える。

Correlation between Emotions Associated with Childcare
and Characteristics of Nurturing Behavior in Child-rearing Mothers
Tomoko NAKAGAWA, Akiko HOSHINO, Miho SHIZAWA, Toshiki KATURA

[2894]

受付 16.12.13

採用 18. 6.25

1) 京都府宇治市役所（保健師）

2) 京都府立医科大学大学院保健看護学研究科地域看護学領域（研究職）

3) 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻予防看護学分野（研究職）

II. 研究方法

1. 調査対象および調査方法

研究デザインは、無記名自記式質問紙調査による横断研究である。

調査対象者は、A市の保健センターで2014年9～11月に開催された1歳8か月児健康診査（対象年齢：1歳8か月～2歳未満）および3歳児健康診査（対象年齢：3歳6か月～4歳未満）を受診した子どもの母親690名である。

調査票の配布は、各健診の案内文を送付する際に、研究への依頼文と調査票および提出用封筒を同封して郵送し、健診当日、会場の受付に回収箱を設置して回収した。

2. 調査項目

1) 対象者の基本属性

対象者の基本属性は、母親の年齢、家族構成、子どもの数、就労状況、精神疾患の既往歴および現病歴、主観的健康観、出産前に子どもと接した経験、育てにくさ、育児の手伝いの有無、子どもの年齢、性別、出生順位を尋ねた。子育て仲間については、近所で世間話や子どもの話をする人や、親子で一緒に過ごす子育て仲間の有無および子育て仲間の数とした。また、夫がいる対象者には、夫の育児関与について、夫の育児協力、話し合い、育児への理解の有無を尋ねた。

2) 養育態度

養育態度は、中道らの「親の養育態度尺度」を活用した⁹⁾。これは、養育態度を「応答性」と「統制」の2次元により測定する尺度で、16項目からなる。応答性とは、母親と子どものコミュニケーションと養育から成り立ち、子どもの意図・欲求に気づき、愛情のある言語や身体的表現を用いて、子どもの意図をできる限り充足させようとする行動である。統制とは、養育上の統制と母親の成熟欲求から成り立ち、子どもの意思と無関係に母親が子どもにとって良いと思う行動を決定し、それを強制する行動である。各項目に対して、「ぴったりあてはまる」～「ぜんぜんあてはまらない」までの4件法（配点1～4点）で尋ねた。統制得点が平均値以上の者のうち、応答得点が平均値以上の者を「権威的態度」（応答性＝高、統制＝高）、平均値以下の者を「権威主義的態度」（応答性＝低、統制＝高）、統制得点が平均値以下の者を「許容的態度」（統制＝低）

として分類した。

3) 育児感情

育児感情は、荒牧の「育児感情尺度」を用いた¹⁰⁾。これは、育児への否定的感情と肯定的感情を測定する尺度で、5カテゴリー21項目からなる。否定的感情には、育児への負担感（育児への束縛による負担感、子どもの態度や行為への負担感）と、育児への不安感（育て方への不安感、育ちへの不安感）がある。育児への負担感は、日常的な育児場面において生じる苛立ちや束縛感、子どもへの嫌悪感を示し、育児への不安感には、子どもの発達や成長、自分自身の親としての適性への不安感を示す。また肯定的感情は、育児への肯定感と言われ、育児への否定的感情とは別次元として母親の中に混在し、心理的な葛藤状態に陥ると言われている。各項目に対して、「全くない」、「あまりない」、「ときどきある」、「よくある」までの4件法（配点1～4点）で尋ねた。

3. 分析方法

対象者の基本属性は、割合および平均値を算出し、養育態度別に、 χ^2 検定および一元配置分散分析後、多重比較（Tukey法）を行った。 χ^2 検定で有意差が認められた場合には、残差分析を行った。5%水準で調整済残差の絶対値が1.96以上のものを有意とした。養育態度と育児感情の関連は、一元配置分散分析を行った。解析は、SPSS 22 for Windowsを用いた。

4. 倫理的配慮

本研究は、京都府立医科大学医学倫理審査委員会の承認を得て実施した（平成26年8月19日承認番号BRB-E-78）。

III. 研究結果

調査票を配布した乳幼児健康診査受診者690名のうち、472名から回答が得られた（回収率68.4%）。そのうち、精神疾患の既往者および現病者36名と、回答に不備があった者66名を除外し、370名を分析対象者とした（有効回答率53.6%）。

1. 対象者の基本属性と養育態度との関連（表1）

母親の平均年齢は34.52±4.39歳で、家族構成は夫婦と子どものみが329名（88.9%）と最も多かった。子どもの数は平均1.95±0.83人で、1歳児が157名

表1 対象者の基本属性と養育態度

n = 370

項 目		全体	Ⅰ：権威的態度		Ⅱ：権威主義的態度		Ⅲ：許容的態度		p	多重比較
		n	n (%)	調整済 残差	n (%)	調整済 残差	n (%)	調整済 残差		
◆母親		370	114 (30.8)		84 (22.7)		172 (46.5)			
年齢（平均± SD）＊		34.52±4.39	34.74±4.30		35.18±4.84		34.05±4.19		n.s.	
年齢（区分）	20歳代	48	9 (18.7)		9 (18.7)		30 (62.6)		n.s.	
	30歳代	277	92 (33.2)		60 (21.7)		125 (33.8)			
	40歳以上	45	13 (28.9)		15 (33.3)		17 (37.8)			
家族構成	夫婦と子どものみ	329	105 (31.9)		75 (22.8)		149 (45.3)		n.s.	
	夫婦と子どもと血縁者	29	7 (24.1)		6 (20.7)		16 (55.2)			
	母と子どものみ	7	0 (0.0)		3 (42.9)		4 (57.1)			
	母と子どもと血縁者	5	2 (40.0)		0 (0.0)		3 (60.0)			
就業状況	有職（パート・アルバイトを含む）	192	52 (27.1)		45 (23.4)		95 (49.5)		n.s.	
	無職	178	62 (34.8)		39 (21.9)		77 (43.3)			
主観的健康観	健康である	350	110 (31.4)		80 (22.9)		160 (45.7)		n.s.	
	健康ではない	20	4 (20.0)		4 (20.0)		12 (60.0)			
出産前に子どもと接した経験	あり	306	95 (31.0)		73 (23.9)		138 (45.1)		n.s.	
	なし	64	19 (28.1)		11 (17.2)		34 (53.1)			
育てにくさ	感じる	214	68 (31.8)		51 (23.8)		95 (44.4)		n.s.	
	感じない	156	46 (29.5)		33 (21.2)		77 (49.4)			
育児の手伝い	いる	349	111 (31.8)	1.7	74 (21.2)	－ 2.8	164 (47.0)	0.8	0.015	
	いない	21	3 (14.3)	－ 1.7	10 (47.6)	2.8	8 (38.1)	－ 0.8		
子どもの数（平均± SD）＊		1.95±0.83	1.92±0.75		2.14±0.82		1.88±0.87		0.048	Ⅱ－Ⅲ群間
◆子ども										
年齢	1歳児	157	43 (27.4)	－ 1.2	29 (18.5)	－ 1.7	85 (54.1)	2.5	0.036	
	3歳児	213	71 (33.3)	1.2	55 (25.8)	1.7	87 (40.9)	－ 2.5		
性別	男児	208	57 (27.4)		47 (22.6)		104 (50.0)		n.s.	
	女児	162	57 (35.2)		37 (22.8)		68 (42.0)			
出生順位	1人目	164	54 (32.9)	0.8	23 (14.0)	－ 3.6	87 (53.1)	2.3	0.002	
	2人目以上	206	60 (29.1)	－ 0.8	61 (29.6)	3.6	85 (41.3)	－ 2.3		
◆子育て仲間										
近所で世間話や子どもの話をする人										
	いる	312	96 (30.8)		69 (22.1)		147 (47.1)		n.s.	
	いない	58	17 (29.3)		15 (25.9)		25 (43.1)			
親子で一緒に過ごす子育て仲間										
	いる	298	96 (32.2)		61 (20.5)		140 (47.0)		n.s.	
	いない	72	17 (23.6)		23 (31.9)		32 (44.4)			
子育て仲間の数（平均± SD）＊		3.88±3.33	1.91±0.75		3.20±3.40		4.01±3.37		n.s.	

χ²検定 (ただし, 有意差が認められたもののみ残差分析を実施)

*多重分析 Tukey 法 (*p<0.05, **p<0.01)

養育態度は, 応答性平均値3.30以上, 統制平均値3.36以上で分類。

(42.4%), 3歳児が213名 (57.6%) であった。対象者の応答性平均値は, 3.30±0.37点, 統制平均値3.36±0.41点で, 養育態度を分類すると, 権威的態度は114名 (30.8%), 権威主義的態度は84名 (22.7%), 許容的態度は172名 (46.5%) であった。

養育態度別に有意差のあったものを見ると, 権威主義的態度の母親は, 育児の手伝いがいない母親が有意に多く (p<0.05), 2人目以上の子どもを育児している母親に有意に多かった (p<0.01)。許容的態度の母親は, 1人目を育児している母親に有意に多かった (p

表2 夫の育児関与と養育態度

項 目	n = 358 (母子家庭を除く)							
	全体	I : 権威的態度		II : 権威主義的態度		III : 許容的態度		p
	n	n (%)	調整済 残差	n (%)	調整済 残差	n (%)	調整済 残差	
夫の育児協力								
協力的である	251	88 (35.1)	2.4	50 (19.9)	- 1.9	113 (45.0)	- 0.6	0.034*
協力的でない (どちらでもないを含む)	107	24 (22.4)	- 2.4	31 (29.0)	1.9	52 (48.6)	0.6	
夫との育児の話し合い								
話す (ときどき話すを含む)	336	107 (31.9)		72 (21.4)		157 (46.7)		n.s.
話さない	22	5 (22.7)		9 (40.9)		8 (36.4)		
夫の育児への理解								
理解してくれている	207	72 (34.8)		45 (21.7)		90 (43.5)		n.s.
理解していない(どちらでもないを含む)	151	40 (26.5)		36 (23.8)		75 (49.7)		

χ^2 検定 (ただし, 有意差が認められたもののみ残差分析を実施), (* $p < 0.05$)

表3 養育態度と育児感情

n =370							
	全体	I：権威的 態度	Ⅱ：権威主義的 態度	Ⅲ：許容的 態度	多重比較		
	平均± SD	平均± SD	平均± SD	平均± SD	I－Ⅱ群間	I－Ⅲ群間	Ⅱ－Ⅲ群間
					p		
◆育児への負担感							
育児への束縛による負担感	8.59±2.27	8.43±2.17	8.96±2.21	8.51±2.35	0.229	0.958	0.281
子どもの態度や行為への負担感	10.68±2.90	10.31±2.91	11.60±2.85	10.47±2.84	0.005**	0.884	0.009**
◆育児への不安感							
育て方への不安感	10.00±2.53	9.89±2.73	10.37±2.47	9.90±2.41	0.379	0.999	0.337
育ちへの不安感	8.00±2.71	7.78±2.81	8.02±2.78	8.13±2.61	0.808	0.529	0.950
◆育児への肯定感	14.23±1.71	14.64±1.73	13.92±1.62	14.08±1.71	0.009**	0.018*	0.746

一元配置分散分析, 多重比較, Tukey 法 (* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$)

SD: 標準偏差

<0.05)。その他の基本属性と養育態度との間に有意差はみられなかった。

2. 夫の育児関与と養育態度 (表2)

養育態度別に有意差のあったものをみると, 権威的態度の母親には, 夫が協力的である母親が有意に多かったが ($p < 0.05$), その他の養育態度に有意差はみられなかった。

3. 養育態度と育児感情との関連 (表3)

権威的態度の母親は, 権威主義的態度 ($p < 0.01$) や許容的態度 ($p < 0.05$) の母親よりも, 育児への肯定感が有意に高かった。また, 権威主義的態度 ($p < 0.01$) や許容的態度の母親 ($p < 0.01$) よりも, 子どもの態度や行為への負担感が有意に低かった。

権威主義的態度の母親は, 権威的態度 ($p < 0.01$)

や許容的態度の母親 ($p < 0.01$) よりも, 子どもの態度や行為への負担感が有意に高かったが, 育児への不安感には有意差はみられなかった。育児への肯定感は, 権威的態度の母親よりも有意に低かった ($p < 0.01$)。

許容的態度の母親は, 権威主義的態度の母親よりも子どもの態度や行為への負担感が有意に低く ($p < 0.01$), 育児への肯定感は権威的態度の母親よりも有意に低かった ($p < 0.05$)。

IV. 考 察

1. 幼児を育てる母親の養育態度の特徴

本研究では, 幼児を育てる母親の応答性は高く, 統制は低かった。親の養育態度は, 子どもの意図・欲求をできる限り充足させる傾向が増え, 受容的に子どもに接していると言われており¹¹⁾, 幼児を育てる母親は, 子どもの意思を尊重し要求に合わせるなどの応答性が

高くなっていると考えられる。一方、子どもと友だち感覚で接し、行動規制への説得力が乏しい親子像の変化にみられるように¹²⁾、子どもが基本的な生活習慣や社会性を身につけるための母親の統制的な行動が低いことがうかがえる。これらの結果から、幼児を育てる母親は、子どもの要求を享受する傾向は高いが、子どもの自律性や社会性を育むための解決方法を見出し、子どもに適切に対処していく能力は乏しいことが推測される。

2. 養育態度と育児感情との関連

本研究の母親は、許容的態度の者が約半数を占めていた。この態度は、1人目を育児する者に多く、権威的態度の者よりも、育児への肯定感が低かった。初めて子育てを経験する母親は、自分の接し方ややり方が悪かったと思う者が多いと言われていることから¹³⁾、子育ての経験不足や知識不足が、育児やしつけの失敗を自分の非と捉えてしまい、育児への肯定感がもちにくく考えられる。

また、子どもが基本的な生活習慣や社会性を学ぶ幼児期では、母親が子どもの発達課題に即した関わりをもつことが求められ、親もまた育児を通じて、人格的発達を遂げる重要な時期であると言われている¹⁴⁾。よって、特に第1子を育てる母親に対し、母親同士で個々の子どもに適した関わりについて話し合う機会を積極的に支援していく必要がある。親同士が学びながら親になるための学習を支える支援である親教育支援プログラムなどの活用や¹⁵⁾、地域で親支援学習の充実を図っていくことが必要と思われる。

また、権威的態度の者は他の2つの養育態度と比較して、育児への負担感が低く、育児への肯定感が高かった。権威的態度の者は、子どもの健全な発育を促すと言われているが¹⁶⁾、子どもとの関係や自分の育児を肯定的に捉えることができる母親は、子どもに対し柔軟に関わり、成長発育に適切に対応する養育態度をもつと考えられる。また、夫の育児への協力が母親の育児感情の安定のみならず、母親の適切な養育態度まで影響を及ぼすことが推測された。夫婦関係は、母親の親としての発達に強く影響していると言われている¹⁷⁾。夫の育児協力は、夫婦で子どもへの育児責任を携えて親としての関わり方を考えることにつながり、母親が良好な養育態度を形成するうえで重要な役割を担っていると考えられる。

一方、子どもを服従させ、子どもの心理や行動を激しく制御する特徴があると言われている権威主義的態度の者は、他の2つの養育態度と比較して、育児への負担感が最も高く、育児の手伝いが最も少なかった。育児への負担感をもつ母親は、すぐに怒ったり、手を上げる等の子どもに対して攻撃的な行動をとることが多く¹⁹⁾、育児制約感を強く感じている母親ほど、物事に柔軟に対応する姿勢をもちにくいことが報告されている²⁰⁾。本研究結果にみられた育児の手伝いが少ない権威主義的態度の母親も育児負担感が高く、それが子どもの要求への柔軟な関わりを阻害し、子どもを思い通りに厳しく接すると考えられた。また権威主義的態度は、2人目以上の子育てをしている母親に多いことから、育児の多忙なことが考えられる。母親が適切な養育態度を形成し実行するには、まず母親が子育てや家事等生活において時間的にも精神的にも余裕をもつための支援が重要である。しかし、妊産婦の不安や悩み等を傾聴する「産前・産後サポート事業」は推進されているものの、この事業では家事支援は除外されている。家族等からの育児の手伝いが少ないと考えられる妊産婦に対し、育児ヘルパーを導入する等、子育て中の母親の実際の生活の困りごとに寄り添った具体的な支援を地域で推進していく必要があると思われる。

3. 本研究の限界と課題

本研究結果は、限定された健診受診者であり一地域の分析結果のため、対象集団全体を反映しているとは言いがたい。今後、子どもの成長に伴う母親の養育態度および育児感情の変化や夫の養育態度との関連についての検討が課題である。また、夫の育児協力が母親の養育態度に影響を及ぼすと推測されたが、協力の具体的内容を検討していく必要がある。

さらに、応答性と統制に関連する要因を検討することで、母親の良好な養育態度を育成する手立てを考えていく必要があると思われる。

V. 結 論

幼児を育てる母親の養育態度は、育児感情の育児への負担感や育児への肯定感が関連していた。母親の育児負担感を緩和させ育児肯定感を高めることは、母親の良好な養育態度に関連していることが示唆された。乳幼児を育てる母親が、親子の相互作用の中で、わが子の成長と状況に合わせた柔軟な養育態度を形成する

ためには、母親の育児感情が養育態度に及ぼす影響を適切に把握し、それをサポートすることが重要である。要因に応じて、親になるための学習支援や、夫の積極的な育児参加の推進、母親の育児への負担感を軽減し、精神的余裕をもたせるための具体的な育児支援サービスの充実が求められる。

謝 辞

本研究の調査実施にご協力くださいました A 市の住民の皆様および自治体職員の皆様に、心より感謝申し上げます。

学会発表および研究費助成はありません。

利益相反に関する開示事項はありません。

文 献

- 厚生労働省. “平成27年度児童相談所での児童虐待相談対応件数” <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000132381.html> (2018年4月1日アクセス可能)
- 渡邊美奈美. 育児不安の再検討. 東京大学大学院教育学研究科紀要 2011; 51: 191-202.
- 原田正文. 子育ての変貌と次世代育成支援—兵庫レポートにみる子育て現場と子ども虐待予防—. 名古屋: 名古屋大学出版会, 2006: 138-161.
- 厚生労働省. 平成27年度版厚生労働白書. 日経印刷, 2015.
- 小林利宣. 教育・臨床心理学中辞典. 京都: 北大路書房, 1990.
- 井田歩美. わが国における「母親の育児困難感」の概念分析—Rodgersの概念分析法を用いて—. ヒューマンケア研究会 2013; 4 (2): 23-30.
- 松岡弥玲, 岡田 涼, 谷 伊織, 他. 養育スタイル尺度の作成—発達的变化と ADHD 傾向との関連から—. 発達心理学研究 2011; 22 (2): 179-188.
- 浦山晶子, 金川克子, 大木秀一. 母親の身近な人間関係におけるストレス感と不適切な養育行動との関連性について. 石川看護雑誌 2009; 6: 11-17.
- 中道圭人, 中澤 潤. 父親・母親の養育態度と幼児の攻撃行動との関連. 千葉大学教育学部研究紀要 2003; 51: 173-179.
- 荒牧美佐子, 無藤 隆. 育児への負担感・不安感・肯定感とその関連要因の違い—未就学児を持つ母親を対象に—. 発達心理研究 2008; 19 (2): 87-97.
- 中道圭人. 父親・母親の養育態度が幼児の自己制御に及ぼす影響. 静岡大学教育学部研究報告 2013; 63: 109-121.
- 古市久子, 加藤美恵. 家庭の教育力の低下と親の意識の変移について. Educare 2004; 25: 15-30.
- 前田美子, 堀井奈緒, 長谷川嘉奈子, 他. 幼児の排泄のしつけに関する研究—しつけに伴う母親の気持ちとうまくいかなかった時の対応—. チャイルドヘルス 2004; 7 (11): 68-72.
- 服部祥子. 生涯人間発達論. 東京: 医学書院, 2000: 109-120.
- 日本 BP プログラムセンター. “BP プログラム実施状況報告書 (2016年4月~2017年3月)” <http://www.akachangakita.com/report.php> (2018年4月1日アクセス可能)
- Baumrind D. Child care practices anteceding three patterns of preschool behavior. Genetic Psychology Monographs 1967; 75: 43-88.
- 佐々木くみ子. 親になることによる人格的発達に関する研究—第1子妊娠期の父母について—. 母子衛生 2005; 46 (1): 62-68.
- 国立社会保障・人口問題研究所. “2013年社会保障・人口問題基本調査 第5回全国家庭動向調査” http://www.jpss.go.jp/ps-katei/j/NSFJ5/NSFJ5_top.asp. (2018年2月1日アクセス可能)
- 川崎佳代子, 小林慎子, 北條恵美子, 他. 育児感情・育児行動の実態及び関連する要因—4歳未満の子供を育児中の母親の調査から—. 母性衛生 2000; 41 (1): 158-169.
- 柏木恵子, 若松素子. 「親になる」ことによる人格発達: 生涯発達の視点から親を研究する試み. 発達心理学研究 1994; 5 (1): 72-83.

〔Summary〕

The purpose of this study was to clarify the correlation between the nurturing characteristics of child-rearing mothers and the emotions associated with childcare. To this end, a questionnaire survey was conducted for mothers whose children (infants aged 20 months and children aged 3 years) underwent checkups at the City Health Center in City A. Valid responses were obtained from 370 people and the valid response rate was 53.6%. The results showed that the most common of the three

nurturing attitudes was the permissive attitude (172 respondents : 46.5%) and positive feelings about child rearing were significantly lower for mothers with this attitude than for those with authoritarian attitudes. Additionally, mothers with authoritative attitudes had significantly higher positive feelings about child-rearing and significantly lower feelings of burden associated with their children's attitudes and behaviors than mothers who displayed the other two nurturing attitudes. Moth-

ers with authoritarian attitudes had significantly stronger feelings of burden about their children's attitudes and behaviors than those with the other two nurturing attitudes.

[Key words]

child-rearing style, emotions associated with childcare, responsiveness, orderliness, child-rearing mothers